



# 佐藤さんのキャベツ



コロナの影響で今年は大好きなゴルフコンペも減りましたが「まあ、元気に仕事出来るだけ良いな」



大量のキャベツを無農薬で作り注文に合わせて出荷するのは大変な仕事ですが、笑顔を絶やしません。



今年も順調に育った佐藤さんのキャベツ。美味しいだけでなく、胃腸を整え、風邪の予防や疲労の回復にも貢献します。

おかげさま農場は「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

## ★おかげさま農場を支える大黒柱の1人

佐藤さんのキャベツの出荷が絶好調です。キャベツは8月に種を蒔くので栽培初期は水撒きや防虫ネットを張ったりと手間がかかります。また、年越しのキャベツは寒すぎると大きくなり、急に温かくなると生育が進んで割れてしまうなど、なかなか読みが難しい作物です。佐藤さんはそんなキャベツを長年安定的に出荷してきました。

今年は昨年のような大型台風は来ませんでしたが、秋の長雨の影響で10日ほど出荷開始の予定が遅れてしまいました。「あの天候じゃ生育も進まないよな」と大ベテランの佐藤さんも読めない気候でしたが、キャベツを出荷し始めたら今度は11月とは思えない暖かさになってしまいました。「今度は生育が進み過ぎてこのままだと割れてきちゃうよ。困った天気だ」最近、ようやく時節にあった気候に落ち着いてきたので佐藤さんもほっとしています。

気候は読めませんが、栽培方法は確立しています。それは長年の土作りと経験があるから。2年ほど熟成させた完熟堆肥を長年入れてきた畑では土作りが出来ているため「最近では牧草やソルゴーなどの緑肥で十分堆肥の代わりになる」と言います。夏に太陽熱養生をして雑草の種や病害虫を減らし、適期に種を蒔き管理をすることで、今年も見事なキャベツが育ちました。おかげさま農場の大御所の1人、大黒柱の1人で、メンバーから「良く働くよね」と言われるほどの仕事ぶりの佐藤さん。今日もお客様の注文に応えるべく畑を飛び回っています。

## 【産地情報】

◎ホウレン草は大口注文も対応出来るようになりました。一方で、小カブは12月上旬から大口注文は制限する予定です。